



■ テーマ名

認知症の人にやさしいまちづくり研究

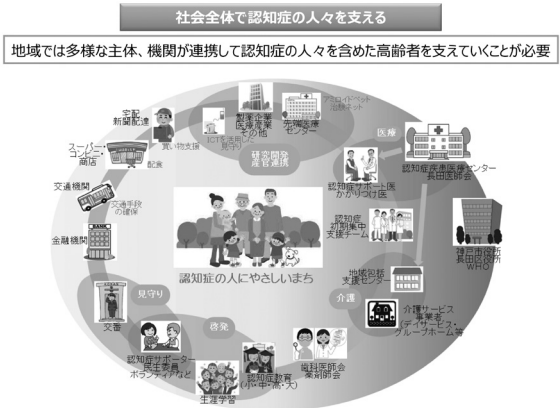
■ キーワード

認知症、認知症サポーター、認知症初期集中支援チーム、認知症予防、認知症の人にやさしいまちづくり、認知症神戸モデル

■ 研究の概要

人口の高齢化に伴って認知症者が増加している。認知機能が低下し、日常生活、社会生活に困難をきたした場合、本人の意思を尊重し、本人の望む生活を維持継続する方策を考える必要がある。認知症になっても、可能な限り以前と変わらない生活を継続するためには、認知症者が尊重され、自信と尊厳を持って暮らすことのできる地域づくりをする必要がある。

本研究課題は、認知症になっても、医療・介護・ボランティア活動などによって、可能な限り、以前と変わらぬ生活を継続するために、どのように地域を変える必要があるかを調査研究するものである。



■ 他の研究/技術との相違点

神戸市をコホートに、自治体の協力のもと、自治体の施策に協働する形で調査研究を行う。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

神戸市全域において、認知機能が低下した人が、何を希望し、何を必要としているかを調査する。その結果をもとに、神戸市が行う「認知症にやさしいまちづくり施策」の基礎調査を行う。認知症神戸モデル（診断助成制度、事故救済制度、診断後支援制度）の普及、啓発を行う。

■ 関連業績（特許・文献）

- (1) Kiyoshi Maeda, Noriko Hasegawa: The Dementia Kobe Model: initiatives to promote a Dementia Friendly Community in Kobe City, Japan. *Psychogeriatrics* 20 (3) : 353-354, 2020.
- (2) Hiroshi Yoshino, Hisatomo Kowa, Kiyoshi Maeda, Hajime Takechi: Eight months observation of check-up system "Kobe dementia model" of dementia in Kobe City". *Psychogeriatrics* 21(2):246-248, 2021.
- (3) 長谷川典子、前田潔：神戸市における認知症施策の紹介。特集 認知症発症前と発症後、それぞれに対する神戸市の取り組み。認知症の最前線 10 (2)78-83, 2020.

■ 研究者から一言

認知症施策の先進都市である神戸市と連携のもと、認知症の人が安心して、尊厳を持って暮らしていくことのできるまちづくりについての調査研究を行う。